日本行動計量学会会報　第65号　　1995年6月1日

行動計量学会通信

日本行動計量学会事務局
〒106 東京都港区南麻布 4－6－7
統計数理研究所　村上研究室

統計手法の選択

岩崎　学

「このデータにはどんな統計手法を適用したら良いでしょうか」といった質問を受けることがある．このような質問の背景には，あるデータセットに対して『最適な統計手法』があるはずだとの迷信（あえて迷信といわせていただく）があるのではないかと思う．

私は，統計学の授業やセミナーにおいて，統計学の役割は『現象の（定量的な）理解』および『知識の共有化』のための方法論の提供であると言うことにしている．あるいは『客観の主観化』と『主観の客観化』と表現することもある．

現象の理解のためには，あらゆる統計的方法論を駆使するだろう．その際，自分が分からないような手法を使う人はいないはずだ．自分で自分を騙すわけにはいかない．より適切な手法が適用できるように，自らの道具箱を豊富にしておくことは，解析者としての務めである．

しかし，解析結果を報告する場合には，そこで使われる方法論にはおのずと制限が付く．せっかく書いたレポートが，それを読む人に理解されないのでは困るからである．素人は騙せても専門家はそうはいかない（簡単に騙されてしまうのが素人であるとの定義も可能であるかも）．結果に対して責任を負わなくてはならない人は，自分の理解できないことは拒否するはずだ．

ごく簡単なものを除けば，統計手法の多くは難解で，手法の手順とその意味を理解するのに相当の努力が必要になる．私は一応統計の専門家のつもりであるが，それでも理解し難い統計手法がたくさんある．例えば，分散分析などの『多重比較法』はいまだによく分からない．

難解であるがゆえに，その手法が分かってくるとついうれしくなって使ってみたい欲望に駆られる．『理解』のためにはそれでよいのが，『報告』は考えものである．特に複雑な構造を持つデータセットの解析では，本来ならばその複雑さに見合ったような複雑な手法を使うべきであろうが，私はそれを奨めない．データが複雑であればあるほど，解析手法は簡単なものでなくてはならないと思っている．

特に注意しなくてはならないのが統計ソフトの利用である．そもそも『データ』と『数値』は似て非なるもので，データには数値情報の他に，その現象に関する過去の経験，データ収集時の出来事など，もろもろのものが含まれている．コンピュータで実行できるのは，数値の加工にすぎなくて，それは『データ解析』ではなく『数値解析』と呼ぶべきものである．解析者は，コンピュータの打ち出してくる訳の分からない『数値解析』に頼るのではなく，自前の『データ解析』をしなくてはならない．

そのためにも『統計学の心』を教える機会をもっと充実させることが急務と考える．それに向けて微力ながら努力しているつもりなのだが・・・．

（いわさき　まなぶ，日本行動計量学会理事，成蹊大学工学部）

会員の皆さんへ

理事会からのお知らせ

この数年間，学会の財政は非常に厳しい状況にあるため，理事会では財政健全化について議論を重ねてまいりましたが，5月15日開催の理事会で，次回の総会（関西大学大会，9月）に，

正会員　8,000 円（現行 6,000 円）

準会員　5,000 円（現行 4,000 円）

賛助会員 50,000 円（現行30,000 円）

とする会費値上げ案を提出し，会員の皆様に審議していただくことが決まりましたので，前もってお知らせいたします．

小グループ研究会募集のお知らせ

日本行動計量学会では，研究活動の活性化をはかるため，毎年数件の小グループ研究会に対して援助を行っています．平成7年度の募集要領は次の通りです．

提出書類：研究会名，代表者名，参加予定人数，簡単な内容（50-100字程度），活動予定等を記載したもの［既定の様式はありませんが、A4版用紙を使用して下さい］．

応募期限：平成7年6月30日（金）必着

郵送先：〒263 千葉市稲毛区弥生町 1－33
千葉大学理学部
日本行動計量学会運営委員会委員長
田栗 正章

お問い合わせは，田栗(Tel 043-290-2725, Fax 043-290-2733）までお願いします．

第59回行動計量学シンポジウム　報告

シンポジウムオーガナイザー
柳井晴夫

日本行動計量学会主催の第59回行動計量学シンポジウムが1995年3月25日に統計数理研究所講堂で開催された．

今回のシンポジウムは「多変量解析の理論と応用の融合をめぐって」というテーマで行われたもので，4人の講師および演題は以下の通りであった．

1．狩野　裕（筑波大）
非正規性と多変量データ解析

2．丘本　正（追手門学院大）
数量化3類とその周辺

3．馬場康維（統計数理研究所）
クラスター分析における諸問題

4．繁桝算男（東工大）
潜在変数を伴う多変量モデルのベイズ解析

なお，司会は柳井と石塚智一（ともに大学入試センター），指定討論者として岩坪秀一（大学入試センター），岩崎　学（成蹊大）が務めた．本シンポジウムは行動計量学会と大学入試センター多変量解析研究会（多変量解析研究会の第100回目に当たる）の主催，および日本統計学会の後援によるもので，全部で72名の参加者があり，全体的に盛会であったといえよう．

上記の講演はいずれもそれぞれの分野における最新の理論的発展を含めたもので，内容が多変量解析の応用というよりは理論に傾斜した話題が多く，多変量解析の応用を期待して参加した人にとってはやや難解であったかもしれない．今後，多変量解析のユーザーを対象にした講習会も開かれる必要があろう．

日本行動計量学会講習会　報告

行動計量学会運営委員　繁桝算男

日本行動計量学会が主催する講習会が久し振りに1995年4月4日，東京工業大学・百年記念館フェライト会議室にて開かれました．

今回の講習会は「計量データ分析のため

のプログラムパッケージ活用術」というテーマのもとに，〝一応〟プログラムパッケージを使えるようになった人を対象に，パッケージの有効な利用法の一段のレベルアップを図るという目的で私と野口裕之氏（名古屋大学）とで企画致しました．幸いなことに，行動計量学に関心を持つ人のニーズに合っていたようで87名の参加者が熱心に受講されていました．

講師及び演題は次のとおりです．

1．SAS による実験の計画と分析
　　高橋行雄（日本ロシュ）

2．SAS／IML の活用
　　前川真一（大学入試センター）

3．SAS による共分散構造分析
　　豊田秀樹（立教大学）

4．HALBAU の活用
　　高木廣文（統計数理研究所）

5．S-PLUS の活用
　　上田太一郎（三菱電機東部コンピュータシステム）

高橋氏は，実験の計画と分析における最近のSASの発展について，特に分析の点では，MIXEDプロシジャにおいて変動の種類を特定することの意義を，また，デザインにおいて，OPTEXプロシジャの有効な使い方について説明がありました．

前川氏は，SASにおいて，線形計算を見通しよく計算できるIMLについて基礎からプログラムの実例まで半年分の講義に値するような内容をコンパクトにまとめて講義されました．

豊田氏は，共分散構造分析について，その考え方から説き始め，CALISプロシジャのプログラミングの基本から実例に至るまでわかりやすく話されました．

高木氏は，自らが中心になって開発されたHALBAU について，その基本的な設計思想と，メニュー形式によるその使い方を実例を通して手ほどきされました．

上田氏は，S-PLUS のプログラミングについてその基本，及び，実際のプログラムについて，自らの体験を通してお話しいただきました．

このような講習会は，学会あるいは学会員の持つ知識を社会還元するという意義があることは勿論ですが学会としても次のような２つの利点が考えられます．

一つはSAS，HALBAU，S-PLUS 等の発展のためにユーザーの意見が反映されることです．プログラムパッケージは，学術雑誌に掲載された内容がすぐとりいれられることがある等，理論の最先端との距離はむしろ縮まっているような気がしますが，プログラムパッケージの能力をユーザーが十分に享受していないという点では，パッケージとユーザーの距離は遠くなっているようです．この距離を縮めるためには，この講習会のようなユーザー側の努力が必要ですが，使いやすさ等の点でユーザーの声を反映し，改良する余地も多いように思います．

二つめの利点としては，SAS 等のプログラムパッケージの潜在力を活用することによって，行動計量学自体の発展が促進されることです．よく言われるように，コンピュータの発展が統計学を変えつつありますが，特に，パッケージを上手に使うことが，実データから有用な情報をひきだそうとする行動計量学の発展に寄与するところが大きいと思います．

勿論良いことばかりではなく，次の講習会につなげるための反省点もありました．先にあげたような中味の濃い内容を９時30分から５時の間につめこんだわけですから，かなりの消化不良があったかも知れません．もともと学会の企画する講習会ですので手とり足とりのコーチングを目的とはしてお

りませんでしたが，〝一応〟パッケージを使えるというそのレベルによっては，講師の方々の説明が少し専門的すぎたかもしれません．今後は，受講者の前提知識をより特定化すること，内容も欲ばりすぎないような講習会を企画すべきでしょう．是非，社会のためにも学会の発展のためにも役に立つような講習会の企画が続くことを希望致します．

チュートリアルセミナー
EQS for Windows による共分散構造分析入門」のご案内

日本行動計量学会第23回大会は9月12日～14日に関西大学において開催されますが，その前日11日（月）の午後，学会主催のチュートリアルセミナーが下記の要領で開催されることになりましたのでご案内いたします．なお，ご不明な点などがありましたら，狩野（下記連絡先）までお気軽にお問い合わせください（この案内は大会の第2号通信でもお知
らせします）．

セミナータイトル：EQS for Windows による共分散構造分析入門

講師：P. M. Bentler (UCLA 心理学科 教授, Psychometric Society 会長(1983))

狩野　裕（筑波大学数学系 助教授）

日時：平成7年9月11日（月）
13:00～17:00

場所：関西大学100周年記念会館第1会議室

参加費：5,000円
（学生，大学院生は3,000円；
当日会場にて申し受けます）

申込先：狩野　裕宛，電話，葉書，FAX，e-mail にてお願いします．

締切：平成7年8月末日．

照会先（申込先）：

〒305 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学 数学系
狩野　裕
電 話：0298-53-4229
Ｆａｘ：0298-53-6501
e-mail：kano@math.tsukuba.ac.jp

チュートリアルセミナー内容

因子分析モデルやパス解析モデルの拡張である共分散構造モデル（構造方程式モデル，LISRELモデルとも云われる）は，計量心理学，計量社会学，計量経済学，計量生物学などの研究においてしばしば用いられるようになってきた．その理由の第一は，因果関係の仮説を表現するパスダイヤグラムの導入にある．視覚に訴えるパスダイヤグラムにより因果関係が容易に理解できるようになり，また，モデルに関して必要な知識はすべてパスダイヤグラムで表すことができるので解析が容易になった．

もう１つの理由はモデルの一般性である．共分散構造モデルは，回帰分析，分散分析，共分散分析，検証的因子分析，多重指標モデル，パス解析，構造関係モデルなどを下位モデルとして実現できる極めて一般性のあるモデルなのである．それらに加えて，正規分布や非正規分布の下での統計理論が整備されていること，また，統計分析を容易にするすぐれた統計解析パッケージ(e.g., LISREL, EQS, CALIS）が提供されていることも大きな理由である．

本チュートリアルセミナーでは，まず，記号，仮定，識別性，推定法，適合度，モデル設定など共分散構造分析の基礎を説明し，続いて，共分散構造分析モデルを，よく知られた回帰分析と比較しつつわかり易く解説する．最新 version である Windows 対応の共分散構造分析ソフトウェア EQS を用いて，いくつか実際データを解析する．共分散構造分析を実行する方法や出力の見

方，注意すべき点などを紹介する．

本セミナーの最終目的は，1) 共分散構造モデルとその解析事例を十分に理解し，2) 自分自身のモデルをどのように設定すればよいかについて十分な知識を得ることである．

EQS for Windows, Version 5, EQS 5 for Macintosh について

EQS は, DOS もしくは MS Windows 上での PC，UNIX Workstation, Macintosh コンピュータ上で動く共分散構造分析ソフトウェアです．この分野では，LISREL が先行しましたが，EQS は非正規母集団への対応や複数母集団の同時解析と比較など豊富なオプションとユーザーフレンドリーという特徴を持ち，現在は LISREL を凌ぐと言っても過言ではないでしょう．

特に，Windows 版とMacintosh 版の EQS は極めて簡単に操作できます．つまり，マウスを用いて簡単にパスダイヤグラムが描け，EQS はこのパスダイヤグラムを自動的に方程式に翻訳し実行します．解析者は方程式を入力する必要がなく，もちろん行列演算の知識も不要です．

研究会紹介

多変量データ解析の理論と実践研究部会

大阪電気通信大学情報工学部
辻谷将明

○ 研究の主題および研究の概要

科学技術や計算機の進展とともに，大量かつ複雑な多変量データの解析がますます必要になってきた．そのため，多変量データ解析の理論面のみならず実践の場において，十分な知識や経験の蓄積が望まれる．

本研究部会では，このような現状の下で，多変量データ解析を真に役立つものとするために，多変量解析に興味を持つ，幅広い分野の研究者・実務家の参加により，次のような視点からの研究及び学術交流を行う．

(1) 現在の多変量解析の理論では十分対応できない多岐に及ぶ問題を再検討し，根本的な反省を謙虚に行う．

(2) 統計学および，その周辺の情報科学の知識も積極的に導入し，統計学との融合により，実践における未開決の問題に挑戦する．

具体的には，行動科学や工学データのみならず，関西という地理的な利点をいかし，製薬企業における臨床実験データなどの解析を試みる．その結果，多変量データ解析の理論と実践との多彩な展開の接点を見いだし，双方の発展を志向する．幅広い分野において現実に理論や手法がどの様に使われているのか，問題点は何か，またそれに対する解決等について，討論・研究を行う．こうして，多変量解析における理論面・応用面の調和のとれた研究活動を促進することを目的とする．

○ 研究部会の計画，進め方

(1) 月１回（講演者一人）あるいは二ヶ月に１回（講演者二人）程度研究会を開く．また必要に応じ集中して研究会を開き効果を高める．

(2) 研究会の発表は部会メンバーと，メンバーの推薦または希望する統計学者のみならず広く情報科学に携わる専門家にお願いする．
(3) 発表者のテーマに関して，自由な質問と活発な討論を行う．

○ 開催場所

大阪大学基礎工学部，
大阪電気通信大学情報工学部

○連絡先

〒572　寝屋川市初町18－8
大阪電気通信大学情報工学部　辻谷将明
Tel & Fax 0720（25）4685

会員便り

近　況

上智大学文学部心理学科　明田芳久

対人関係・対人行動一般に関心を持っていますが，一方で道徳性・価値観の心理学的基礎に関する共同研究グループに参加し，教育現場の先生方や心理学者・社会学者ともどもに研究活動を進めています．子どもの道徳性や青年期の価値観のデータを扱いながら，psychometrics や behavior-metrika の基礎の学び直しの必要性を感じています．本学会に所属させていただいて10数年，学会誌の講読会員（？）の現状から少しは脱却をめざしたいものです．

ヒトの運動視機構は昆虫と同じか

大阪市立大学文学部　　上野雄宏

もともと色覚の心理物理的研究をしているが，最近急に，いまはやりの運動視の問題に興味をもち，まず手始めに２つの光点を提示しその時空間にみられる古典的な仮現運動の実験を行った．

おおよそ36年前に，ハエの追跡運動（光運動反応）から発展し，現在，Reichardt detectors と呼ばれているものがある．これは自己相関関数の原理にもとづく機構である．上記の実験データを説明するために，この概念的枠組で「モデルもどき」を構築し，その成果をこの分野の専門家に見せた．自分では現象の本質を射たと思ったが，彼氏いわく『単純すぎる』と．やれやれヒトの運動視の機構は複雑奇妙（？）なものかと頭を悩ましている．

近　況

東京国際大学人間社会学部　高倉節子

この4月から，上記の大学の福祉心理学科に勤務し，主として福祉の分野で研究を進めていくことになりました．解析的な方法の研究には，やや遠のくことになります．しかし，調査というと，ケース・スタディが主流をなす福祉の分野でも，物事をグローバルに捉え，的確な判断をすべきことは多く，目的とデータの内容によってどのような解析方法を用いたらよいか，ケース・スタディと，グローバルな結果をどうジョイントしたらよいかなど，行動計量の視点に立った研究は常に必要と思っています．

近　況

サントリー㈱基礎研究所　難波和子

企業に在籍する中での研究であるので，やはり，「ヒットする商品」，しかも，定番，大型といわれる大ヒットを狙うのに役立つ研究という至上命題を持っております．といっても，私の部署は，「基礎研究所」であり，実際商品設計を手掛けるわけではありません．消費者嗜好，購買行動からみた商品評価や，商品開発，コンセプト作りに役立つ情報発信が主な役割です．そういう意味で，様々な分野の行動科学の実際的応用的研究例に注目しています．又，研究結果の報告等の形で，学会にも参加できるよう努力したいと思っております．

近　況

東京大学教育学研究科　平井洋子

中学生における英語習得の診断的測定をテーマに，言語テスト法や記述データの解析法を調べつつ，測定モデルに苦慮しているところです．その中で最近感じていることがあります．それは，「行動計量学」誌などで魅力的な方法論，応用例が種々提案される中で，その手法を応用したいけど諦

めている人が結構いるのではないかということです．その理由はプログラミング．私のような「応用」派には手間ヒマがかかりすぎるのです．

一方で，国内外には有償無償の様々なソフトが出回っています．その情報をもっと効率よく共有できないでしょうか．（先日の第59回行動計量学シンポジウム「多変量解析の理論と応用の融合をめぐって」で，繁桝氏がGibbs Samplerのフリーソフトに言及されていました．私の同僚がこの情報に非常に感謝していました．）行動計量学会がこのような情報の集積地になって下さると，我々「応用」派はとても助かるのですが．

博士論文概要

筑波大学　博士（数学）

佐藤道一

題目：Contributions to Statistical Inference

主査：赤平昌文

概要：まずBayes信頼区間に基づく検定において，かなり一般に，実験回数を予め指定した場合にNeyman-Pearsonの結果を認め尤度原理も認めると，「棄却されるまで実験を続ける」という停止則が閉になることを示した．

次に適当な正則条件の下で，ある事前密度に関するBayes危険による不等式を用いて，ミニマックス危険の評価を行い，一様分布を含む広い分布族に属する事前分布に関するBayes危険の下界を求め，その下界の達成についても論じた．

また，最小十分統計量を求めるために，従来の方法を改良した．さらに，逐次多項試行において停止則が閉であるための十分条件について考察し，分布の平均，中央値，最頻値，歪度の間の関係について論じた．

広島大学　博士（理学）

綿森葉子

題目：Statistical Inference of Langevin distribution for Directional Data

主査：藤越康祝

概要：ランジュバン分布 $M_p(\mu, \kappa)$ は，方向データを扱う確率モデルの一つであって，最も基本的かつ重要なものとして知られている．この分布に関する統計的推測については，Watson (1983, 1984) 等によりその極限理論が展開されている．

本論文では，高次漸近理論，すなわち，漸近展開に基づく極限理論の精密化をいくつかの問題について論じている．漸近的考察は，標本数が大の場合と集中化母数が大の場合の2つの場合について行っている．具体的な問題の1つとして，集中化母数 κ の推定問題を扱っている．κ の最尤推定量の分布の漸近展開を導出し，この結果に基づいて，最尤推定量と周辺最尤推定量を3つの基準：不偏性，平均2乗誤差および集中確率によって比較している．

また，いくつかのランジュバン母集団について，平均方向母数の一様性仮説および各平均方向母数がある与えられた空間に属するという仮説の検定問題を扱っている．これらの仮説検定問題に関して，尤度比統計量およびWatson統計量の漸近展開を導出し，パワー比較を試みている．

修士論文題目

筑波大学　修士（数学）

田中秀和：Deficiency and Minimum Discrepancy Estimators of Multimonial Parameters

千葉大学　修士（理学）

桜井裕仁：Gamma分布を核関数とした確

率分布の近似とその数値的検討

保坂正徳：マルコフ決定過程における占有確率の最適化への応用

宋　金杰：Occupation Measures in Average Cost Markov Decision Processes

立教大学　修士（社会学）

金　鎮琇：観光地の選択に関する実証的研究ースキー状選択の例を中心としてー

大阪大学　修士（工学）

岡田聡平：経時測定データの解析法

奥西雅広：Start-Up Demonstration Test における待ち時間の問題

坂本　亘：セミパラメトリック回帰問題におけるスプライン平滑化

中井美幸：順序制約のある多重比較法

広島大学　修士（理学）

浅井美紀子：順序制約の下での2項分布の母数の均一性の検定について

大平哲也：Fisher 線形判別関数の頑健性について

村田真也：多次元尺度法における固有値・固有ベクトルの漸近的性質

広島大学　修士（教育学）

乙原泰博：Ridge パラメータ許容範囲の設定ー最小2乗推定量との比較を中心にしてー

波平伸夫：統計学における非負行列の役割ー第2固有根の挙動を中心にしてー

広島大学　修士（学術）

矢島崇顕：成長曲線を中心とした回帰模型の研究

大分大学　修士（工学）

大波多恭子：離散データ解析における解析支援に関する研究

中田達人：Mathematical Modelling の手法と応用

平野和代：Cox の比例ハザードモデルにおける2つのブートストラップ法

森重和昭：動的グラフィックスのデータ解析支援への応用

お願い：1995年3月で誕生した新博士，新修士に関する上記のような情報がありましたら会報担当の岩崎（連絡先は会報の最後に記載）までお知らせください．次号会報に掲載します．

日本学術会議関係報告

日本学術会議会員　藤井光昭

1．連合部会・第4部会

(i) 会員推薦手続きの改正の検討

学・協会が増加しているが，実態としては必ずしも科学者として認められないと思われる者が構成員となっている団体もあり，登録団体の資格要件を更に設けるかどうかが検討されている．そのためには登録団体の認定のもととなる「科学者」の資格要件をどうするかが審議されている．

この点については第1部から第7部の間では意見が一致しないが，第4部では「2年以上の研究歴を有し，その学問分野で査読つきの学術雑誌等に掲載された論文が1編以上あるもの」という方向で意見を出す

ことになった．第７部も似た考えである．

その他学術研究団体の登録に関し，登録の資格条件（構成員の2/3以上を特定の地域が占めていないこと，大学等研究機関に所属する者の割合が1/2以上であることなど）も審議されている．

(ii) 平成7年度第4部国際会議代表派遣について

統計関係は要求したが，今回は派遣旅費の配分は受けられなかった．

2．第５常置委員会(学術情報・資料関係)について

５回開催され，(i) 公的資料の保存については，国立公文書館の視察，要望事項の取扱いを検討，(ii) 学術情報ネットワーク関係では，戸田厳会員を委員長とする小委員会を設置，学術情報センターについてのヒヤリング等を行った．

3．統計学研究連絡委員会

第２回統計学研究連絡委員会を平成7年2月1日に開催した．統計関連の各学会から推薦された７名の委員の他，日本学術会議の前田（第２部），尾崎（第３部），大島（第５部），高石（第７部）の各会員に出席いただいた（藤井は第４部選出）．前期から引き継いでいる (i) 統計に関する教育研究体制の整備，(ii) 統計関連学会の共同事業，の２つの課題について具体的な今期の活動計画等の検討を行った．

(i) については，学生等に統計学について魅力を持たせるための方策は何か，統計学研究者とユーザーとが乖離しない方策が必要等種々の意見が出された．

(ii) については，共通名簿の可能性について統計学研究連絡委員会が呼びかけて，各学会担当者の意向をうかがうこととした．

関連学会カレンダー

1995年6月1日（木），2日（金）

日本人間工学会第36回大会

会場：仙台市民会館

連絡先：東北大学文学部心理学研究室
Tel : 022-222-1800 (2541)
Fax : 022-265-8028

6月23日（金），24日（土）

第36回日本心身医学会総会

会場：日本都市センター

連絡先：東京大学医学部附属病院分院
心療内科
Tel : 03-3943-1151,
Fax : 03-3943-4274

7月9日（日）～14日（金）

HCI International '95 in Tokyo
6th International Conference on Human-Computer Interaction

会場：パシフィコ横浜

連絡先：HCI International '95 事務局
武蔵工業大学経営工学科内
〒158 東京都世田谷区玉堤1-28-1
Tel & Fax : 03-5707-9053,
Email : hci95@ie. musashi-tech. ac. jp

7月24日（月）～27日（木）

日本統計学会研究発表会

（7月24日はチュートリアルセミナー）

会場：大分大学

連絡先：日本統計学会事務局
〒106 東京都港区南麻布 4-6-7
統計数理研究所内
TEL 03-3442-5801
FAX 03-3442-5924

7月28日（金）～31日（月）

統計サマーセミナー '95

会場：竹原簡易保険保養センター
（広島県竹原市西野町 442-2）

連絡先：広島大学理学部数学教室
藤岡照夫
〒739 東広島市鏡山 1-3-1
TEL 0824-22-7111 (ex. 2690)
FAX 0824-24-0710
e-mail fujioka@math.sci.
hiroshima-u.ac.jp

9月28日（木）～30日（土）

日本教育心理学会第37回総会

会場：茨城大学水戸キャンパス

10月17日（火），18日（水）

応用統計シンポジウム

会場：成蹊大学
（武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1）

連絡先：応用統計学会事務局
〒 223 横浜市港北区日吉
慶応義塾大学理工学部管理工学科内
TEL & FAX 045-562-4442

10月19日（木），20日（金）

日本計算機統計学会シンポジウム

会場：住商コンピュータサービス
（東京都墨田区両国 2-10-14）

連絡先：住商コンピュータサービス
新村秀一
〒130 墨田区両国 2-10-14
両国シティコア
TEL 03-5624-1731
FAX 03-5624-1725

12月4日（月）～6日（水）

第38回自動制御連合講演会

会場：筑波大学大学会館
（つくば市天王台1-1-1）

連絡先：（社）計測自動制御学会
担当　宍戸えみ子
〒113　東京都文京区本郷1-35-28-303
Tel : 03-3814-4121,
Fax : 03-3814-4699

公募案内

成蹊大学経済学部教員公募

職名・人員：教授，助教授，専任講師の
いずれか1名

所属：経済学部　一般教養

採用予定日：平成8年4月1日

担当科目：情報科学（リテラシー教育），
経済または経営の分野の情報
処理，経済学ほか

応募資格：大学院修士課程修了以上，またはこれと同等の学識を有すること．ただし，コンピュータおよびネットワークの経験があり，経済または経営の分野でデータ分析に関心のある方．

書類提出期限：平成7年6月30日

提出書類等の問い合わせ先：

〒180　東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
成蹊大学経済学部　中西寛子
FAX：0422-37-3874

会員による著訳書

行動計量学シリーズ（朝倉書店）

1．行動計量学序説　林知己夫　著
3296円

2．数量化のグラフィックス－態度の多変量解析－　穐山貞登　著　3296円

3．健康の計量学　山本俊一　著　2678円

4．医療と社会の計量学　山岡・小林　共著　3090円

5．リーダーシップの行動計量学－「働く日本人」の変貌－　三隅二不二　編著　2678円

6．真贋の科学－計量文献学入門－　村上征勝　著　2884円

7．現代テスト理論　池田　央　著　3708円

8．多変量データ解析法－理論と応用－　柳井晴夫　著　3399円

9．制約つき主成分分析法－新しい多変量データ解析法－　高根芳雄　著　3296円

10．言語の科学－比較言語学の新しい方法－　安本美典　著　3708円

以下続刊

事務局からのお知らせ

最近，日本行動計量学会の名簿を用いて電話で利殖等の勧誘を行っている会社がありますが，行動計量学会とは一切関係がありませんのでご注意下さい．なお，もしそのような会社の会社名，電話番号等がわかりましたら学会事務局まで御連絡お願い致します．

会報編集者から

本号では，昨年度末に誕生した新博士，修士論文の一覧を掲載しました．日本各地における研究動向に関する情報収集の手助けになることを期待します．本号で掲載した以外にも興味深い学位論文が数多くあると思われます．それらの情報をお寄せください．次号以降の会報に掲載します．博士論文に関しては簡単な概要をお付けください．

また，それ以外の情報も積極的にお寄せください．学会への注文，苦情なども歓迎します．原稿は下記宛お送りください．できればe-mailでお送りいただくと編集作業上たいへん助かります．

次号会報は9月1日発行予定で，記事の締切は

7月31日

です．お待ち申し上げております．

原稿送付先

〒180　武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
成蹊大学工学部経営工学科
岩崎　学
TEL 0422-37-3764
FAX 0422-37-3871
e-mail iwasaki@.is.seikei.ac.jp

（会報作成担当：岩崎　学・前田忠彦）

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています．詳しくは

〒113 東京都文京区本駒込5－16－9
学会センター　C－21
㈶日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL 03－5814－5810
FAX 03－5814－5825

までお問い合わせください．